

## 「風邪」が新型コロナと同じ「5類感染症」に…患者も病院も負担が増える可能性を専門医は指摘

2024/12/13 ピンスバ

「11月29日、厚生労働省が普通の風邪を“急性呼吸器感染症”として、新型コロナ肺炎やインフルエンザと同様の『5類感染症』に分類するという省令を交付しました。施行は2025年の4月7日からです」（全国紙社会部記者）

ちなみに、5つの特定感染症には物騒な感染症が並ぶ。

- ・1類=ペストやエボラ出血熱など。
- ・2類=結核やジフテリアなど。
- ・3類=コレラや腸チフスなど。
- ・4類=狂犬病や日本脳炎、マラリアなど。
- ・5類=新型コロナ肺炎、インフルエンザのほか、梅毒や破傷風など。

致死率が5割を超えることも多い1類ほどではないものの、梅毒も破傷風も放置したら死に至りかねない疾病。鼻水や咳、発熱などが主な症状で、高齢者や重い持病がある人以外はめったに死なない“風邪”をそんな病気の仲間に入れても大丈夫なのか。

医療ジャーナリストの牧潤二氏がこう解説する。

「コロナで感染症に対する関心が高まり、一般的な風邪も厚労省で把握しておこうということでしょうね。また、風邪が特定感染症に位置付けられることで、これを予防するワクチンの開発も進むことが期待されます」

だが、その一方でこんな懸念も。

「検査費用は公費で患者の負担はさほど増えませんが、風邪が5類に分類されると、特定病院など全国に約5000か所ある医療機関では、患者数や症状を報告しなくてはならなくなります。そのため、省令には医療現場関係者の反対が多いんですよ」（前同）

### ■医療機関の負担が増えて大パニック

感染症対策に詳しい岡田正彦・新潟大学医学部名誉教授もその一人だ。

「風邪が5類に分類されると、まず症例を報告する任務を負った病院の仕事が増えます。ただでさえ忙しい医療機関に新たな負担がかかることになるのです」（岡田氏）

それだけではない。ただの風邪が5類に格上げされたことで、不必要な薬の処方も増える恐れがあるというのだ。

「風邪をひいて熱が出たり、咳が出たりするのは“体を休めろ”というサイン。2〜3日寝ていれば治るケースがほとんどなのです。熱が出るのも風邪のウイルスを殺すためですから、解熱剤なども、本当は使わないほうがいい」（前同）

患者が過剰に薬を服用する事態になりかねないのだ。また、抗菌剤を使う医師もいるが、こうした処方耐性菌が増えてしまうリスクも十分考えられる。

「当面は、近所のかかりつけの病院に行く限り、患者にとっては処方薬が増えるぐらいでそんなに大きな影響はないでしょう」

と前出の牧氏は言うが、さらなる懸念が。

「将来的に、風邪の5類感染症格上げが医療保険にはね返る可能性は無視できません」（前出の社会部記者）

これ以上、庶民の支出が増えぬことを祈るばかりだ。ピンスバNEWS編集部